

# 2018年度事業報告書

2018年5月1日から2019年4月30日まで

特定非営利活動法人 CFFジャパン

## 1 事業の成果

### 【青年育成事業】

#### (1) 海外ボランティアプログラムの質の向上ならびにプログラムディレクター養成

2018年度は4年ぶりに開催したマレーシアファミリーキャンプを含め、フィリピン・マレーシア・ミャンマーにて計19回の海外ボランティアプログラムを実施。のべ369名の参加者を現地に派遣し、18名の青年リーダーを育成しました。リーダー育成においては、CFFのミッションとリーダーのビジョンの関係性を明確にし、そのためのワークショップを実施するなど、半年間のリーダー育成の強化を図りました。

2018年度に採用した2名の職員のプログラムディレクター養成においては、OJTの他に渡航前後にディレクターミーティングを実施し、実働上での迷いや対処法などをディレクター同士で議論。ディレクター養成と同時に、現地プログラムの質の向上を目指しました。

#### (2) プログラム参加後の活動実践の場作り

社会に向けて自ら行動できる青年育成を目指した国内プログラム「Social Action Challenge (SAC)」を開始。CFFの海外プログラムに参加した学生が国内のフィールドで活動し、活動先へ貢献するとともにチームとして課題解決に取り組み、そのプロセスを通じて社会に向けて自ら行動できる人の育成を目指しています。年2回6ヶ月のプログラムで、計15名の青年が4フィールドにて活動し「小さくとも社会課題に取り組む実践の場の提供」を果たすことができました。

#### 〈派遣先と活動内容〉

- ・ 児童養護施設における子どもの遊びと学習支援
- ・ 外国にルーツを持つ子どもの学習支援
- ・ 困難を抱えた子どもたちが安心して過ごせる居場所作り
- ・ 人や組織をつなぎ地域を盛り上げるNPO

#### (3) 経済的に困難な青年等の海外プログラム参加の体系確立

CFFサポーター寄付を財源に運用を開始した旅行費用補助制度では、児童養護施設在園児や卒業者への補助予定を変更して、プログラム参加希望者の中でも特に経済的な事情により参加が困難な青年の参加の後押しを目的に補助することとしました。今年度からは新たに収入基準額を設け、基準を満たす方に対して一人あたり5万円の補助を実施し、プログラム参加の後押しをすることができました。

(2018年度旅行費用補助制度利用者数：8名)

#### (4) 学校との協働型事業に向けた青年育成プログラムの構築

2013年より5年間、文科省スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定校の順天高校との協働において、フィリピンフィールドワークのコーディネートを担当。事前準備や調査、事後の探求や発信などを通じて生徒に伴走する中で、特に下記3点において生徒たちの変化や学びの成果を感じることができました。

#### ●社会課題に対する主体性

現地課題に触れ、調査や活動内容を日々改善していく中で、帰国後や卒業後にも継続して海外で活動を続ける生徒が現れた。

#### ●多角的視点と思考

複雑な課題や現地の人々が直面している困難と向き合うことで、当事者目線で物事を考えたり、異なる視点から事象を捉える柔軟性と思考力が備わってきた。

#### ●成果のアウトプット

フィリピン食材を使用した健康増進のための商品開発や性教育絵本作りなど、現地調査結果を経て日本でも実践できることを形にし、具体的なアウトプットを果たすことができました。

今後はこの5年間で培ってきた育成プログラムを発展させながら、順天高校とCFFジャパンの自主事業としてプログラムを継続していきます。

#### 【海外子ども支援事業】

##### (5) CFF ミャンマー運営支援

CFF ジャパン代表並びに事務局長が渡航し、現地理事会に出席。現地自主事業の吟味や選定において、CFF ジャパンとの協働体制を確認するとともに主体性の向上を図りました。また、現地職員に対し、CFF ジャパン代表が毎月の業務報告と会計報告のチェックを行い、渡航時にはOJTで育成に当たりました。スタッフトレーニングの一貫として現地職員をCFF マレーシアに派遣するコーディネートを実施し、施設運営や会計業務のトレーニングを行いました。

##### (6) 各国CFFとの「協働プロジェクト」

CFF サポーター寄付を財源に、各国CFFと共に実施している「協働プロジェクト」において、2018年度は下記の事業支援を行いました。

- ①フィリピン：入所児童のスキルトレーニングとスタッフ育成
- ②マレーシア：子ども福祉部門オフィスの新設と入所児童・児童指導員へのITトレーニング
- ③ミャンマー：スラムに住む子どもたちに向けた裁縫プロジェクト、CFF ミャンマー運営支援

#### 【その他】

##### (7) プログラム参加者からCFFサポーターになる流れの確立

CFFジャパンの財政基盤強化、またCFFのファンで居続けてくれる仕組み・CFFの事業に参画している意識を持ってもらうための方策を検討。インターン生によるCFFサポーターに特化したHPの作成と運用、申し込み手続きの簡略化、メールマガジンの充実等を図った結果、目標人数を4名上回る39名（内学生25名）が新規サポーターとなり、プログラム参加からサポーターになる流れが確立してきました。

##### (8) 多様な層（教育機関、支援者、保護者等）への情報発信の強化

新webサイトを新設し、職員による日常的な更新や運用がなされることを目標としていましたが、今年度はサイトの編集作業までとなりました。来年度は上記の目標に加え、保護者や関心を持っている教育関係者も含めて必要な人が必要な情報をとれる状態にすることを目指します。

##### (9) 新拠点開設に向けた調査（地域と学生との協働による新規活動の模索、働く環境改善）

空き家マッチング事業への相談、物件調査を経て移転候補地の目安が付き、希望地域内での物件情報収集と見学をしています。日本における「子どもと青年の育ち合い」の実践やプログラム参加後の活動の場作りなどの可能性を踏まえ、引き続き新拠点開設の実現を目指します。

##### (10) 収益基盤強化に関する次の取り組みの検討

春のミャンマープログラムを1プログラム増やし、CFFミャンマーとの協働も強化していくことを検討しています。また、長期目標として、高校との協働事業で海外フィールドワークを担当し、高校における「探求の時間」を利用し、学校と海外フィールドをつなぐ役割を模索しています。

##### (11) 危機管理体制の強化

NGO安全管理イニシアティブ（JaNISS）主催の「安全管理者向け研修」「現地派遣者向け研修」に、危機管理室担当職員・担当理事計3名が参加。交通事故、感染症、自然災害等多岐の事象に渡る危機管理・安全管理計画のポイントを学び、危機管理体制の見直しと強化を図りました。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施回数	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①-a海外での開発教育等を活用した青年育成事業	フィリピンワークキャンプ	5回	フィリピン	2名	日本人108名+現地人
	フィリピンハッピーキャンプ	1回	フィリピン	1名	日本人19名+現地人
	フィリピンスタディツアー	2回	フィリピン	2名	日本人38名
	マレーシアワークキャンプ	5回	マレーシア	2名	日本人106名+現地人
	マレーシアスタディツアー	2回	マレーシア	1名	日本人44名
	ミャンマースタディツアー	1回	ミャンマー	1名	日本人23名
	ミャンマーワークキャンプ	1回	ミャンマー	3名	日本人25名+現地人
インターンの育成(海外)	2回	フィリピン マレーシア	3名	日本人3名	
①-b海外での開発教育等を活用した青年育成事業-教育機関との協働事業-	順天高校協働事業	通年	フィリピン	3名	日本人80名
②「子どもの家」支援等を通じた国際協力事業	フィリピン「子どもの家」支援	通年	フィリピン	3名	入所児童+周辺地域
	マレーシア「子どもの家」支援	通年	マレーシア	3名	入所児童
	CFFミャンマー支援	通年	ミャンマー	3名	地域の児童
③国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業	プログラムリーダーの育成と研修実施の支援	2回	都内周辺	2名	プログラムリーダー17名
	インターンの育成(国内)	2回	CFFジャパン事務局	3名	インターン2名
	ボランティアプログラム参加者向け啓発イベント(事後研修2日目)の開催支援	2回	静岡県御殿場市 茨城県境町	1名	ボランティアプログラム参加者約350名
	Social Action Challengeプログラム	2回	都内周辺	3名	ボランティアプログラム過去参加者34名
	イベントへの出展・活動紹介の支援	2回	都内周辺および関西	4名	不特定多数

(2) その他の事業：特になし